

令和3年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第二中学校第3学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・記述で解答する問題に抵抗がある。 ・自分の体験を踏まえて主張を述べることに課題がある。主張はもっているが、それを支える根拠となる事象を日常生活の中から抽出し、まとめて記述することができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会で課題とされている事柄をテーマにあげ、そのことに対しての考えを述べる練習をする。 ・単元毎に作品のテーマに対しての自分の考えをまとめる活動を行う。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識や技能を活用し、応用問題を解く力が乏しい。 ・毎授業の始めに、計算プリントを実施してきたことで、少しずつだが基礎的な学力が定着してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題や応用問題を解く時間を増やしていく。 ・また、それらの問題の解き方を説明する場面を設定し、思考力・表現力の育成に努める。 ・引き続き、計算プリントを毎時間実施していき、基礎学力の向上を図る。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・第1・2学年の既習事項の定着が不十分な生徒がいる。 ・帯学習等により基礎的な学力が少しずつ定着してきている。 ・生徒間の意欲に差が生じている。関心を高める題材、指導法の改善が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での帯活動の振り返りの継続、また授業で既習事項に関連することが出た場合は授業内で積極的に扱う。 ・多くの生徒が関心を持つような視覚資料を多く活用する。また、机間指導では支援が必要な生徒を中心にし、活動や学習の遅れをサポートしていく。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・第1・2学年に学習した内容の定着が不十分な生徒が居る。 ・生徒にとって未知の分野を、予想する際に「分からない」とさじを投げてしまう生徒が居る。 ・得られた実験結果に主観を入れない客観的な考察をすることに困難がある生徒が居る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1・2学年の既習事項の復習や問題演習を授業内に取り入れる。さらに定期考査の試験範囲の一部にも設定し、計画的に復習の機会を設定する。 ・予想する際の発問を工夫し、意欲を持たせるとともに、予備知識を事前に用意し、適宜生徒に与えながら予想させる。 ・具体的な考察例を提示し、結果からどこまで判 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・知識(強弱記号・速度記号などの諸記号)や音の形を意識して表現する姿勢が出てきた。鑑賞分野でも歴史的背景を理解して聴く姿勢は見られるが、自分の考えや意見を言語で表現する部分が不十分な面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、歌唱や器楽の活動場面では知識と表現の関連性を意識させて活動に取り組ませる。言語の表現活動ではグループで意見を交換させたり、発問の内容を工夫する。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な技法練習を表現に活かせない生徒が多かった。 ・鑑賞授業で、感じたことを自分の言葉で表現することが苦手な生徒が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能を活かした参考作品や視覚的情報を充実させる。 ・鑑賞を深めるキーワードを提示する。 	
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> ①各種目に応じて自己やグループの能力を知り、適切な課題設定、及び、主体的に取り組める力を付けさせること。 また、その中から、リーダーの育成にも努める。 ②十分な運動量を確保し、基礎体力・基礎技術の向上から応用力をつけることに力を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マネジメント(準備・移動・待機)の時間が少ない行動を行い、運動量の確保、生徒主体の活動を確保する。 ・運動経験を増やすため、種目ごとに合うトレーニングを準備運動に取り入れていく等、工夫する。 	
技術 家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・消費生活に関する学習に興味を持つ生徒が多い。特に売買契約、支払方法などに関心が高い。 ・生活の課題に気づき、今までの学習を活かして問題解決のための工夫ができるようにする。 ・2週に1度しか授業がなく、Chromebook導入の指導も行ったため、前時の説明などが定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味関心を高める発問や、身近な事例を多く準備し、自分の消費行動と社会との関連性を理解し実生活に生かせるよう指導する。 ・授業で学習したことが、生活を豊かにし生活に生かせる知識と技能となるよう、実際の生活と関連付けられた授業の展開を行う。 ・教師の指導だけでなく、生徒同士の教え合いなどを効果的にできるように支援していく。 	
外国語 (英語)	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本(文法的)な習得が理解できていない生徒がいる。 ・与えられた指示には意欲的に取り組む生徒が多い。 ・話す取組みには消極的な生徒もいる。 ・「書く力」「読解力」に苦手意識を持っている生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1,2年の文法の復習を授業や放課後の指導に取り組む。 ・「自主ノート」(今も継続中)を意欲的に進めていく手立てを提示する。 ・「音読」の重要性を再確認させ、何度も、何度も「音読」させながら、読解する習慣を定着させる。 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値について自発的に発言する生徒が少なくいつも指名で意見を求めている。そのため限られた生徒の考えしか共有できない。 ・通り一遍な発言で終わってしまうことが多い。他者の考えから自分の考えを深めるという多面的・多角的な気付きをもたせることが難しい。 ・対話や討議で考えを深めさせることが難しい。本音で語ったり、互いの意見に耳を傾けて考えることがあまりできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級内で意見を交わせるような人間関係を築く。またさまざまな形で生徒の考えを共有できるような方法を工夫する。 ・考えてみたいと思わせるような発問方法や授業の流れが作れるように指導者が研修する。 ・授業内で考えたり交わったりしたことが後に自分事として捉えられ日常の行動に生きてくるような授業の週末を工夫する。 	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校卒業後の進路について主体的に考えを深められない生徒がいた。 ・修学旅行等の事前、事後学習においてchromebookを用いた際、生徒の技能差が大きかったこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路だよりや説明会にて、生徒の将来の夢や希望についての話題に触れる。そこから逆算して、今取り組むべき課題を見出す過程を経験させ、今後の将来設計も自分の力で切り拓いていく力を身に付けさせる。 ・配布タブレットの使用方法やインストールアプリの特性について、具体的な使用例の提示を行うとともに、活用の場を増やす。 	